

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果と学位論文等審査基準の対応マップ

		卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果		
		1	2	3
学位論文審査基準	1	◎	◎	◎
	2	◎	◎	◎
	3	◎	◎	◎
	4	○	◎	◎
	5	○	◎	◎
	6			

人文科学研究科美術史学専攻博士後期課程の学位論文を評価するためのルーブリック

	尺度5 (S) (特に優秀な成績)	尺度4 (A) (優秀な成績)	尺度3 (B) (要求を満たす成績)	尺度2 (C) (合格と認められる最低の成績)	尺度1 (D) (不合格)
研究課題の明確性及び先行研究を踏まえての的確性	研究分野における問題意識や視座が極めて明確に設定されており、かつ美術史学に関する先行研究を包括的かつ的確に把握し、適切に参照、引用していること。	研究分野における問題意識や視座が十分明確に設定されており、かつ美術史学に関する先行研究を包括的かつ的確に把握し、適切に参照、引用していること。	研究分野における問題意識や視座が概ね明確に設定されており、かつ美術史学に関する先行研究を包括的かつ的確に把握し、適切に参照、引用していること。	研究分野における問題意識や視座が一定程度明確に設定されており、かつ美術史学に関する先行研究を包括的かつ的確に把握し、適切に参照、引用していること。	研究分野における問題意識や視座が博士論文として要求される明確さで設定されておらず、かつ美術史学に関する先行研究の把握、適切な参照、引用などが要求される的確さに達していないこと。
課題を追求する方法論の適切性	美術史学に関する作品や文献を極めて高度に調査・考究した上で、研究分野において極めて適切な方法論を採用していること。	美術史学に関する作品や文献を十分高度に調査・考究した上で、研究分野において適切な方法論を採用していること。	美術史学に関する作品や文献を概ね高度に調査・考究した上で、研究分野において適切な方法論を採用していること。	美術史学に関する作品や文献を一定程度高度に調査・考究した上で、研究分野において適切な方法論を採用していること。	美術史学に関する作品や文献の調査・考究において博士論文として求められる程度に達しておらず、研究分野における方法論においても不十分であること。
研究方法及び調査方法の妥当性	研究分野と研究課題に求められる研究方法および調査方法が極めて適切に採用され、美術史学関連の作品調査、資料収集、読解、分析等が極めて妥当に実施されていること。	研究分野と研究課題に求められる研究方法および調査方法が十分適切に採用され、美術史学関連の作品調査、資料収集、読解、分析等が妥当に実施されていること。	研究分野と研究課題に求められる研究方法および調査方法が概ね適切に採用され、美術史学関連の作品調査、資料収集、読解、分析等が妥当に実施されていること。	研究分野と研究課題に求められる研究方法および調査方法が一定程度適切に採用され、美術史学関連の作品調査、資料収集、読解、分析等が妥当に実施されていること。	研究分野と研究課題に博士論文として求められる研究方法および調査方法が採用されておらず、美術史学関連の作品調査、資料収集、読解、分析等が博士論文として不十分であること。
結論の妥当性	博士論文の構成、論述において、極めて的確かつ説得力のある結論が実証的、整合的に導き出され、研究分野の発展に貢献しうる結論が極めて妥当に示されていること。	博士論文の構成、論述において、十分的確かつ説得力のある結論が実証的、整合的に導き出され、研究分野の発展に貢献しうる結論が十分妥当に示されていること。	博士論文の構成、論述において、概ね的確かつ説得力のある結論が実証的、整合的に導き出され、研究分野の発展に貢献しうる結論が概ね妥当に示されていること。	博士論文の構成、論述において、一定程度に的確かつ説得力のある結論が実証的、整合的に導き出され、研究分野の発展に貢献しうる結論が概ね妥当に示されていること。	論文の構成、論述において、博士論文としての確かつ説得力のある結論が実証的、整合的に導き出されておらず、研究分野の発展に貢献しうる結論が示されていないこと。
研究の独創性と研究分野への貢献	研究における問題意識、視座、および考察内容が先行研究と照らして極めて独創的であり、研究分野の発展に大きく貢献しうること。	研究における問題意識、視座、および考察内容が先行研究と照らして十分独創的であり、研究分野の発展に十分に貢献しうること。	研究における問題意識、視座、および考察内容が先行研究と照らして概ね独創的であり、研究分野の発展に概ね貢献しうること。	研究における問題意識、視座、および考察内容が先行研究と照らして一定程度に独創的であり、研究分野の発展に概ね貢献しうること。	研究における問題意識、視座、および考察内容が先行研究と照らして、博士論文として要求される独創的に欠け、研究分野の発展に貢献しえないこと。
その他	美術史学に関する作品・文献の調査・考究に基づいた問題意識を提示し、美術史学研究に対する視座が極めて明確に示されていること。研究倫理に関して適切に判断されていること。的確な語句使用、文章表現がなされ、学位論文としての体裁がととのっていること。	美術史学に関する作品・文献の調査・考究に基づいた問題意識を提示し、美術史学研究に対する視座が十分に示されていること。研究倫理に関して適切に判断されていること。的確な語句使用、文章表現がなされ、学位論文としての体裁がととのっていること。	美術史学に関する作品・文献の調査・考究に基づいた問題意識を提示し、美術史学研究に対する視座が概ね示されていること。研究倫理に関して適切に判断されていること。的確な語句使用、文章表現がなされ、学位論文としての体裁がととのっていること。	美術史学に関する作品・文献の調査・考究に基づいた問題意識を提示し、美術史学研究に対する視座が一定程度示されていること。研究倫理に関して適切に判断されていること。的確な語句使用、文章表現がなされ、学位論文としての体裁がととのっていること。	美術史学に関する作品・文献の調査・考究に基づいた問題意識を提示し、美術史学研究に対する視座が示されていないこと。研究倫理に関して適切に判断されていないこと。的確な語句使用、文章表現がなされ、学位論文としての体裁がととのっていないこと。